



C4Cだより

一般社団法人コミュニティ・4・チルドレン
 〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町1-45-1-302
 TEL:06-6622-5645 / FAX:06-6621-7139
 メール:community_4_children@yahoo.co.jp
 HP:https://www.community4children.com/

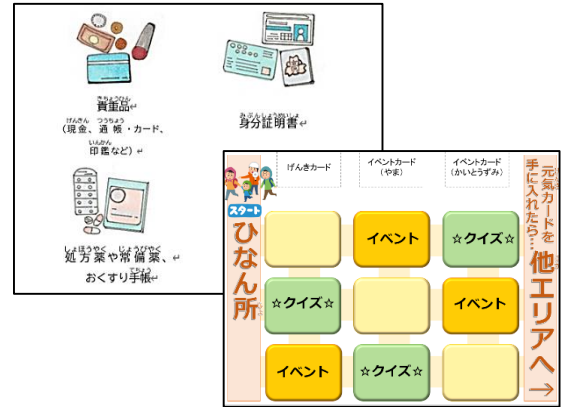
宮城 / 東日本大震災から10年。防災ゲームを開発&体験会を開催します!

今年で東日本大震災から10年を迎えます。またこの間、全国各地で台風・豪雨・地震など様々な災害が多発しました。くらしの学びサポートオフィス HumanBeingでは2018年度から、『自分の暮らしに合わせて備える』『困ったときには助け合う』そのような災害からの教訓を、子どもから大人まで、体験を通じて学び・考えていただけることを目指し2つの防災ゲームを開発してきました。

ゲームの開発にあたっては、宮城県内外で福祉・防災活動に取り組む皆さんと企画会議を立ち上げ、取り組んできました。令和元年東日本台風や新型コロナウイルス禍の影響で会議の開催が延期となった時期もありましたが、これまで16回の企画会議を開催し、「このゲームを通じて伝えたいことは何か」「どうすれば子どもから大人まで楽しみながら学べるツールになるか」検討を重ねてきました。

このゲームの体験会を3月20日(土)に開催します。完成間近となったこの機会に全国の皆さんにモニターとしてご体験いただき、このゲームをより良いものにするためのご意見・アイデア等いただきたいと考えています。

新型コロナ禍の中でも安心してご参加いただけるよう、オンラインでつながりながら、家庭・職場・学校などそれぞれの場所でゲームをご体験いただくかたちとなります。ぜひ、お申込みをお待ちしています! 詳細&お申し込み方法は同封のチラシをご覧ください。(菅原)



タイ / 牛銀行委員会が村の子どもたちに奨学金を授与しました!



2013年よりC4Cでは何度か牛銀行キャンペーンを実施し、皆様からいただいたご寄付をもとに、ノンメック村青少年のための就労・就学支援基金設立に向けて村の人たちと協働してきました。一世帯が母牛3頭を飼育し、産まれた子牛は、飼育者と村人で構成する牛銀行委員会とで分け合います。時期をみて子牛を売却し、青少年のための基金とします。母牛は次の飼育者へと貸し出されます。

このように地域の中で資金が生み出され、子どもの教育や就労を支援しています。

これまで口蹄疫の流行や干ばつなど、様々な困難に直面してきましたが、村人たちは、飼育者選びから牛の飼育、

管理、売買など様々な事を皆で話し合い、時には喧々諤々となりながらも困難を乗り越えてきました。

また、多くの人に牛銀行について関心を持ってもらうよう牛糞を利用した堆肥作りや有機農業普及活動も行っています。共有財産である牛の飼育に対する責任感や情熱も生じ、委員たちの絆は深まりました。

子牛を売った収益の利用について、村人たちは話し合った結果、28人の子どもに少額ですが奨学金として配布することにし、12月19日に行政区長を含め牛銀行委員会のメンバーによる奨学金授与式を行いました。

村人たちは、奨学金を受け取った子どもたちの笑顔を見て、一層自分たちのコミュニティと子どもたちの将来に想いを馳せることができるようになったようです。

今後も牛銀行の運営をサポートしていきますので、応援のほどよろしく願いいたします。(加藤)



フィリピン / コロナ禍での療育支援

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためのコミュニティ隔離措置が始まってから、間もなく1年が経とうとしています。JPCom-CARESは、感染状況に応じた規制と緩和が繰り返されている中で活動を行っています。

年明けに感染者数が増加し厳しくなった措置も、2月15日からは緩和され、子どもたちも保護者同伴であれば外出ができるようになりました。JPCom-CARESが運営するリハビリテーションセンターにも、少しずつ子どもたちが戻ってきています。しかし、中には、在宅での療育支援を希望される保護者もいるため、ビデオ通話などを使ったオンラインでの支援も継続して行っています。

また、移動規制が緩和されたタイミングで、理学療法士による家庭訪問も実施しました。子どもたちの健康状態や在宅でのマッサージセラピーの効果の確認、



保護者への技術指導やヒアリングを行いました。「伝い歩きができるようになった」、「体力がついてきた」など、保護者やご家族による日々のセラピーの効果を確認することができました。複数の保護者から技術指導の要望や不安の声も聞かれたため、小グループ・複数日に分けて感染対策を行いながら、理学療法や作業療法の研修を1月に行いました。

コロナ禍であっても、子どもたちに必要な療育支援を届けられるように、保護者が不安を抱え込まないように、様々な方法を模索し工夫しながら活動を行っています。(山田)

カンボジア / 子どもの権利向上事業:母の思い～娘によるインタビュー紹介

現地団体Khmer Community Development(KCD)では、子どもたちが教育を受けることができるように様々な活動をしています。親子向け子どもの権利向上研修会の中で、村出身の大学生が母親に聞き取りをした内容をご紹介します。

私の名前はソックヒム、ベトナム国境に近いプレックチュレイ村に住む44歳の農民です。

3年前に夫を亡くしました。夫が生きていた頃、農業と日雇いの労働でなんとかやりくりしていましたが、夫の死後、私一人で家族を養うことになり、食べ物が買えないときもありました。それでも子どもを学校に行かせるお金だけは隣人に借りて工面しました。

親戚や隣人は言いました。『娘がたくさんいるのだから工場で働かせて仕送りさせたらどうなの？あなたの娘がどんなに賢くても、女の将来は夫次第。妻として家事、子育て、夫の世話をするのが大切。学歴は重要じゃない。男は自分より高学歴の女を求めないから、結婚もできなくなるわよ』と。

でもそんな声に耳を傾けることはありませんでした。子どもたちには家族のために勉学をあきらめてほしくありません。彼らのために一生懸命働きました。高い教育を受ければ良い

仕事に就き、将来家族を支えるだけの収入を得ることができると信じているからです。

現在、長女は奨学金を得て、プノンペンで働きながら大学に通い、次女は来年大学進学のために、仕事をしてお金を貯めています。双子の三女と息子は高校3年生。長女が他の子の学費も支援してくれるようになりました。このような機会を与えてくれたKCDスタッフに感謝しています。

(聞き手 娘:レンチバ)



※インタビュー後、娘のレンチバが母の思いを描いた絵

このような理解者が一人でも増えるよう、KCDは子どもやコミュニティと日々協力して活動を進めています。(加藤)

代表のつぶやき

3月11日、東日本大震災から10年を迎えます。もう10年なんだと思っている中、福島県沖を震源とする地震が発生しました。この地震で、心が折れてしまった方も多かったのではないのでしょうか。宮城における「日ごろから自らの命と暮らしを大切にしている人づくり」「困りごとに気づき合い、支え合う地域づくり」を目指して、福祉・防災学習に取り組み始めてから今年6月で9年目を迎えます。この間、宮城県では関東・東北豪雨、東日本台風災害が発生しました。福祉と防災力の向上に取組ながら、被災された方々の支援も行って来た10年間でした。

現在は世界中がコロナ禍です。各国に調整やツアーで行くことも出来ず、オンラインでのミーティングが続いていますが、現地では、移動など様々な制限の中でも、工夫しながら活動を継続しています。使命感を持って取り組む様子に感謝しています。

本会は、この10年間、たくさんの方々と共に具体的な取り組みを実施してきました。このことをしっかり振り返り、これからに向けて心新たに歩んでいきたいと思えます。